

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（平成31年度第1回）議事概要

日 時：平成31年4月26日（金）10：00～11：40

場 所：国立がん研究センター 管理棟 第1会議室

出席者：中釜斉理事長、南砂理事、児玉安司理事、間野博行理事、北川雄光理事、小野高史
監事、増田正志監事

欠席者：松本洋一郎理事

I. 前回（平成30年度第12回）議事録の確認

- ・前回議事録について了承。
- ・議事録署名人を南理事と増田監事に依頼。

II. 審議事項

1. 2019年度の計画等の年間スケジュール

資料に沿って説明され、審議された。

2. 東病院との連携による宿泊施設に係る公募

資料に沿って説明され、審議された。

【主な意見等】

- ・東病院の将来の構想については、センターにとっても初めての事業になることから慎重に進めていきたい。
- ・賃料について、不動産鑑定評価など賃料の合理的な判断をするための参考指標を用意していただきたい。
- ・ホテルをつくることによって、将来の病院の建替の際に動線の制約を受けないか。それも含めて検討をしていくべきだと思う。

III. 報告事項

1. 政府の会議の状況等

資料に沿って報告された。

2. 広報実績等

資料に沿って報告された。

3. 投資委員会報告

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・調達については、現場の細かな利便性を優先しすぎるとなかなか束を大きくできないので、現場の理解を得ながら規模を大きくし、加えて、外に広げ、束を大きくしてい

くということだが、是非頑張ってください。

4. 3月分月次決算等

資料に沿って報告された。

5. 平成30年度 内部監査実施報告

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・診療報酬の加算については、加算をとったときに、ドクターへの周知と、要件を満たしているかのチェックが早期に行われると、乖離が生じる前の対策になるので強化していただきたい。未収金に関しては、発生させない工夫をすること、受診が続いている間に無理のない範囲で分納をお願いしていくという視点で検討していただければと思う。差額ベッドに関して、契約手続きと支払いの期間設定、未収金を大きく膨らませないことについて、体制整備という観点から内部監査を進めていただければと思う。
- ・組織のリスク防止で三線防御というものが監査の教科書に書いてある。第一線の防御ラインは現場。第二線は管理部門。監査部門が第三線で最終ライン。現場や管理部門でそれぞれ防御していただくことが大事。
- ・カルテ記載がしっかりしていないとリスクが発生するので注意してほしい。